**ダンボールコンポストとは？**

ダンボールコンポストとは、ダンボール箱で手作りした「生ごみ堆肥化容器」です。

ダンボール箱の中に微生物が住みやすい環境を整えると、中に入れた生ごみを微生物がどんどん分解してくれます。目に見えないほど小さな微生物（糸状菌やバクテリアなどの細菌）が活発に生ごみを分解し、減量化され、安全な堆肥ができます。

**ダンボールコンポストの作り方**

**■ 用意するもの**

* ダンボール箱
* ガムテープ
* ダンボールの底に敷く板（強度を増すため）
* ダンボールを置く台（角材、苗箱、すのこ等底が直接地面に触れない状態にする）
* ピートモス（５リットル）
* もみがらくん炭（４リットル）
* 米ぬか（約1.5リットル）
* 水（水分は50％～60％に保つようにする）
* フタにする布（通気性があり虫が入りにくいもの。古いＴシャツ、古いバスタオル、洗濯ネットなど）
* 温度計、計量器、スコップ（移植ごて）

**■ 手順**

1. ダンボールの底やすき間をガムテープでとめる
2. ダンボールの底に同じサイズの段ボール1枚を敷いて底を二重にする
3. 台の上に置く（ダンボールを中に浮いた状態にする）
4. ピートモス、もみがらくん炭、米ぬかをダンボールに入れて水分調整し布でフタをして完成

**ダンボールコンポストを使った堆肥の作り方**

ダンボールコンポストの準備ができたら、早速堆肥作りを開始します。生ゴミは微生物が食べやすいように出来るだけ細かく切って新鮮なうちにダンボールに入れて土を被せ、ふたをします。日々かき混ぜて空気（酸素）を入れて夏場なら1～2ヵ月寝かせれば堆肥が完成します

（寝かせている間も時々かき混ぜて空気（酸素）を入れる）

**■ 手順**

1. 水を切って細かくした生ゴミをダンボールコンポストの中央に入れる（今回は200ｇを目安に）
2. 土を上から被せて生ゴミと混ぜあわせる（生ゴミが固まりにならないように混ぜる）
3. 布でふたをする
4. 毎日1回全体をかき混ぜながら、７月末まで生ゴミを投入する（*大きいコンポストは３か月*ＯＫ）
5. 生ゴミの投入をやめて1～2ヵ月後に堆肥の完成（この間も時々全体をかき混ぜる）

**ダンボールコンポストの作り方のポイント**

* 一度に入れる生ゴミは約200gを限度にする（大きいコンポストは500ｇまでＯＫ）
* 使用済みのコーヒーかすを少量入れると防臭効果がある
* 発酵が始まるとコンポスト内は約30～60度の熱を持つ
* 毎日一回はかき混ぜて土の中に空気を入れることで発酵が促進される
* 4～5日かき混ぜないとダニが発生する、悪臭につられて小バエが寄ってくる
* 通気性が悪いビニールなどは被せない
* ふたを必ず閉める
* 生ゴミはできるだけ早く、細かく、水を切って入れる
* 生ゴミはその日のうちに入れる
* 数日経った生ゴミは虫の卵が産み付けられている可能性があるので使用しない
* 一度に大量の魚やイカの内蔵を入れると強いアンモニア臭がする
* 温度が上がらない場合は、使用済みのてんぷら油や米ぬかを少量まぜる
* ダンボールは水に弱いので雨に当たらない場所に置く。破れたらダンボールを取り換える

◎その他の材料で使えるもの

今回はピートモスともみがら燻炭を使用しましたが、その他、腐葉土や竹パウダーなどもダンボールコンポストの材料として使うことができます。
※米ぬかは水分調整材や発酵材になるので入れて下さい。